

可児市観光交流館個別施設計画

令和2年12月
(令和7年10月改訂)

可児市

目次

1	目的と位置づけ	1
(1)	目的	1
(2)	位置づけ	1
2	計画期間	1
3	対象施設	1
4	施設の現状と課題	1
(1)	現状	1
(2)	課題	3
5	今後の方向性	3
6	施設の劣化状況	4
7	対策の優先順位の考え方	4
8	対策内容と実施時期	4

1 目的と位置づけ

(1) 目的

本計画は、可児市公共施設等マネジメント基本方針（以下「基本方針」という。）および可児市公共施設等マネジメント基本計画（以下「基本計画」という。）に基づき、個別施設ごとの具体的な対応方針を定める計画として、点検・診断により得られた個別施設の状態や、維持管理・更新等に係る対策の優先順位の考え方、対策の内容や実施時期を定め、長期的な視点から財政負担の軽減・平準化を図りながら老朽化対策等に取り組むために定めます。

(2) 位置づけ

本計画は国のインフラ長寿命化基本計画（平成 25 年 11 月「インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議」で決定）に基づく個別施設計画として位置づけます。

また、可児市公共施設等総合管理計画（基本方針及び基本計画）の下位計画に位置づけます。

2 計画期間

本計画の期間は、令和 3 年度（2021 年度）から令和 12 年度（2030 年度）までの 10 年間とします。

計画の達成状況を踏まえて、本計画は 5 年を目安に見直しを行うものとします。

なお、計画期間内であっても、社会情勢による状況の変化、事業の進捗状況等に応じ計画の見直しを行うこととします。

3 対象施設

本計画の対象施設は、以下の施設とします。

番号	施設名	所在地	敷地面積	延床面積
1	観光交流館	兼山 674-1	766. 33 m ²	1190. 17 m ²

4 施設の現状と課題

(1) 現状

ア 施設概要（ソフト面）

施設の設置目的	市民及び市を訪れる観光客の利便性を向上して観光の振興に資するため
施設の構成	工作ロフト、音楽ロフト、会議室、児童館、展望サロン、常盤町公民館
施設で行われる事務 サービスの内容	観光の振興に関する事業及び会議室等の施設貸出し 使用時間：午前 8 時 30 分～午後 10 時 休館日：12 月 28 日～翌年 1 月 4 日

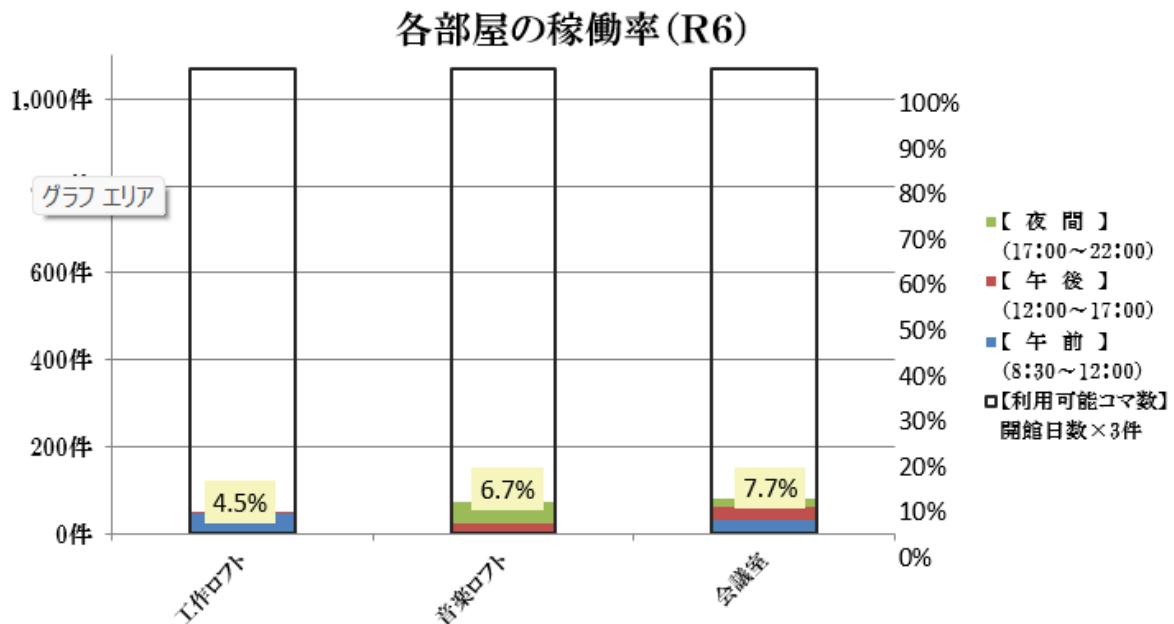
料金体系（時間当たり）	工作ロフト360円、音楽ロフト360円、会議室250円 (※1人につき1,000円を超える入場料を徴収する場合、又は営利を目的として使用する場合は2倍)
-------------	---------------------------------------------------------------------------------

イ 施設概要（ハード面）

施設名称	建築年度	構造	階層数	屋根	外壁	耐震状況
観光交流館	H13	S	4	金属	タイル	新耐震基準

ウ 施設の利用状況

(7) 稼働率



施設全体の稼働率は全ての時間帯において低い状態です。近隣に兼山地区センターがあることで利用者が分散することや、地域住民が少ないことが理由として考えられます。

(イ) 利用者数の推移

年度	利用者数
H20	11,587人
H21	12,067人
H22	11,140人
H23	10,017人
H24	10,957人
H25	13,404人

H26	16,333 人
H27	12,423 人
H28	10,359 人
H29	10,489 人
H30	24,319 人
R 1	31,050 人
R 2	11,684 人
R 3	7,855 人
R 4	14,306 人
R 5	16,554 人
R 6	18,262 人

平成 20 年度から平成 29 年度までは、11,000 人から 16,000 人の間でほぼ横ばいの傾向となっています。平成 30 年度から観光交流館として供用を開始し観光施設として運用を実施したことから、施設利用者が前年比 13,830 人増加し、令和元年には 30,000 人を超えるました。令和 2 年からはコロナ禍により利用者が減少し、令和 3 年には令和元年の約 4 分の 1 まで落ち込みましたが、徐々に施設利用者が戻りつつある状況です。

エ その他

(ア) 施設の防災面の視点

(イ) その他

平成 30 年度から観光交流館として供用を開始し観光施設として運用を行っている。（旧名 兼山生き生きプラザ）

(2) 課題

○施設の維持管理費

建設から 19 年が経過しているため施設全体が老朽化していること、また過去に何度か改修工事を行った関係で電気系統等が複雑化し、破損個所等の特定が難しくなっていることから修繕に時間がかかり、施設利用者に影響を与えることがあります。細部も含めた施設全体の維持管理費用が必要です。

○施設利用者数の今後の推移

平成 30 年度から観光施設として運用開始後、2 年間は利用者数が激増しましたが、その後のコロナ禍により大きく落ち込みました。しかし、令和 4 年以降は利用者数が徐々に戻ってきており、引き続き新規利用者の獲得やリピーターを定着させるなどし、利用者数を増加させることが必要です。

○施設稼働率の向上

現状、年間を通じて固定団体のみの利用のため、稼働率が上がっていない。理由として、地域住民数が少ないので、市内から離れた場所であること、近隣に兼山地区センターがあることがあげられます。

5 今後の方向性

○施設利用者数の増加

観光客等を集客するため、隣接する戦国山城ミュージアムや市内観光施設との共同事業の開催、各種イベントへ積極的に参加することで施設利用者数の増加に努めます。

○施設稼働率の向上

兼山地区センターでの声掛けや兼山児童館に利用を促すなどし、特に子育あるいは高齢者のサロン的な用途等で利用を広めることで施設稼働率の向上を図ります。

6 施設の劣化状況

建物内部、屋根、外壁について部位ごとの目視による確認を基本とし、部分的に触手及び打診調査を実施しました。

○建物の劣化状況の評価の定義

劣化度	評価基準
A	概ね良好。特に修繕上問題となる事項なし。
B	部分的な劣化が見られる。経過観察または修繕対応。
C	広範囲に劣化が見られる。5年以内に改修が必要。
D	劣化の程度が大きく、早急な対応が必要。
—	点検対象外。

○施設別項目別劣化状況

名称	劣化状況					
	屋根	外壁	内部	電気	給排水	空調
観光交流館	B	B	A	A	A	A

7 対策の優先順位の考え方

利用者の安全性確保に係る改修を最優先とし、個別施設の劣化状況、各施設の利用状況、今後の方針等を勘案し、総合的に判断します。

8 対策内容と実施時期

対象施設における今後の対策時期、内容、費用を算出しました。

費用は本計画策定時点における概算であり、工事発注時における詳細な設計や今後の災害発生等の状況

況、社会情勢の変化により、変動が生じる場合があります。

対策時期についても、本市の財政状況等により、変動が生じる場合があります。

(単位:千円)

	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	計
対策内容		外壁		空調 電気		電気		屋根 外壁 床			
費用		497		44,467 2,082		14,675		11,445 14,066 1,063			
年度計		497		46,549		14,675		26,574			88,295